

環境報告書 2023



目 次



環境方針	2
事業活動に伴う環境負荷	3
2022年度目標と活動実績	4
省エネルギー化の取り組み	4
グリーン調達の取り組み	5
環境教育の取り組み	5
地域貢献活動	6
クリーン作戦	6
仲道郁代氏ピアノリサイタル	6
イルミネーション	7
福祉施設へリサイクル作業等の一部委託	7
今後の取り組み	8
お問い合わせ先	9



ユニオンツール(株)

環境方針

基本理念

自然を愛し、人を愛する企業活動を通じて、豊かな地球環境づくりに貢献する。

基本方針

当社長岡工場及び見附工場（以下当社工場という）は、ISO14001規格に準拠した環境マネジメントシステムを構築し、以下の方針に基づく環境保全活動を行うことにより、地域及び地球環境と企業活動の調和に努める。

1. 当社工場の活動、製品及びサービスが環境に与える影響を的確に捉え、技術的・経済的に可能な範囲で目的、目標を定めて環境保全活動を実施する。
2. 環境目的、目標を定期的に見直すことにより環境マネジメントシステム及び環境パフォーマンスの継続的改善を図る。
3. 環境関連法規、条例及び当社工場が同意するその他利害関係者からの要求事項を順守し、更に可能な範囲で自主基準を定め、環境汚染の予防に努める。
4. 当社工場の活動、製品及びサービスに係わる環境影響の中で、次の項目を重要テーマとして取り組む。
 - 1) 省エネルギー化の推進
 - 2) グリーン調達への推進
 - 3) リサイクル化の推進
 - 4) 省資源化の推進
5. 環境方針は、環境マネジメントシステムにより実施、維持すると共に経営者が当社工場で働く全ての人に周知徹底する。
6. 環境方針は、社外に公開する。

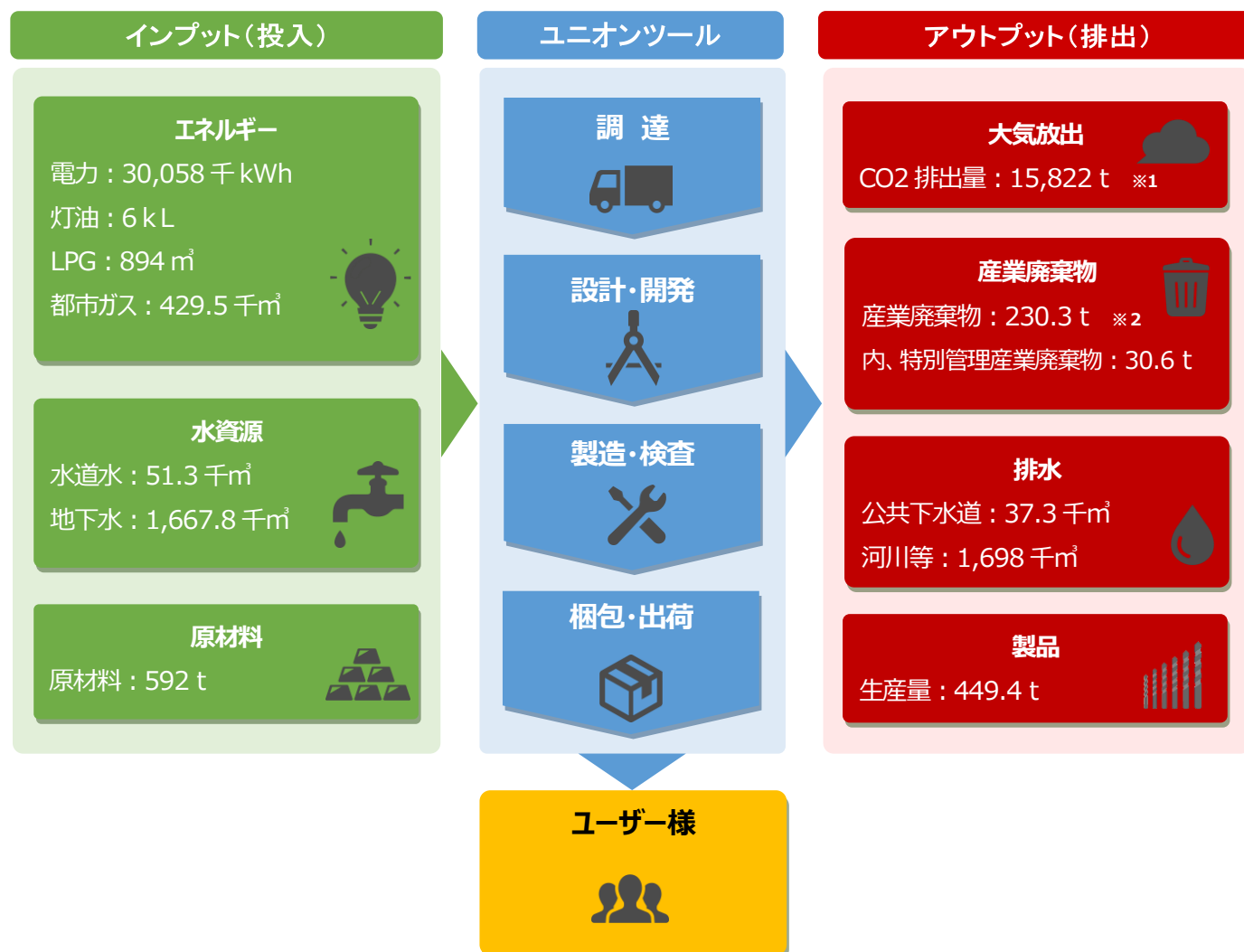
2014年 2月 25日
代表取締役社長 大平 博



◆ 事業活動に伴う環境負荷

当社は、事業活動に伴って発生する環境負荷をインプット～アウトプットにわたって把握・監視することにより、効果的な環境負荷低減活動が行えるよう努めています。

インプットの中で注目されるエネルギーの使用量に関しては、特に CO2 の排出割合が全体の 9 割以上を占める電力について重点を置き、積極的に省エネ活動を行うことにより CO2 排出量の削減を進めています。



☆各数値の集計期間は 2022. 1～2022. 12 とし、数値は長岡工場・見附工場の合算となっています。

※1 CO2 排出量 : 「エネルギー使用の合理化等に関する法律施行規則」に基づき換算

※2 産業廃棄物量 : 「産業廃棄物管理票に関する報告書及び電子マニフェストの普及について」に基づき換算
(環産産発基 061227006 号)



◆ 2022 年度目標と活動実績

2022 年度も環境方針の重要テーマである省エネルギー化、リサイクル化、省資源化に基づき、目標を立て活動を行いました。

省エネルギー化についてはエネルギー起源二酸化炭素排出量を指標とし、前年度の排出量の 1%削減を目標として取り組みを進め、長岡工場、見附工場共に目標を達成することができました。

リサイクル化については製品ケースの新品使用量の削減を推進しています。周囲の状況の変化に伴った効率化・採算性を考慮した形で取り組みの手法を検討していきます。

省資源化については製造設備の開発により新たな省資源工具・長寿命工具の開発・改良を進め、より多くのお客さまに認めていただける製品となるよう引き続き追求していきます。

2022 年度目標と活動実績

項目	推進内容	2022 年度目標	2022 年度実績	評価	頁
省エネルギー化	2024 年度までに単位生産二酸化炭素排出量 (※1) を 2019 年度比 5%改善	2021 年度エネルギー起源二酸化炭素排出量 (※2) の 1%相当を改善により削減する	【長岡】 2021 年度二酸化炭素排出量の 2.3%削減	◎	4
			【見附】 2021 年度二酸化炭素排出量の 1.3%削減	○	4
省資源化	環境配慮型製品の開発推進	高性能工具の開発 3 件	高性能工具の開発 3 件	△	-
省資源化 リサイクル化	脱プラスチック・脱炭素を意識した取り組みの推進	PCB 工具用ケースの新品使用量を 2021 年度比 10%削減	管理方法の整備	△	-

【評価】 ◎：目標を大幅に達成 ○：目標を達成 △：目標をほぼ達成 ×：目標未達成

※1：単位生産二酸化炭素排出量＝PCB ドリル 1,000 本生産当たりのエネルギー起源二酸化炭素排出量

※2：エネルギー起源二酸化炭素排出量＝当社が購入しているエネルギー（電力、ガス、灯油等）の使用により排出される二酸化炭素量

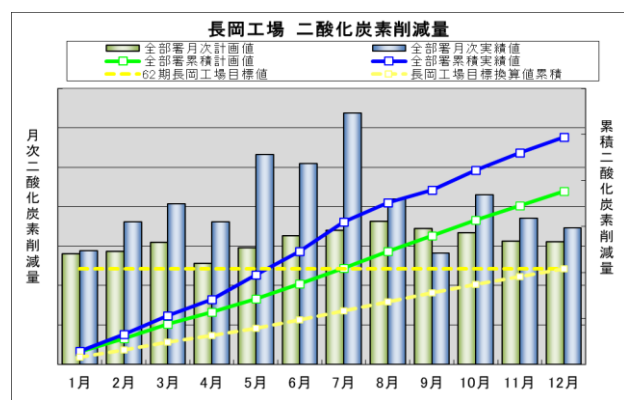
◆ 省エネルギー化の取り組み

2022 年度よりエネルギー起源二酸化炭素排出量を指標とし、各工場とも「2021 年度エネルギー起源二酸化炭素排出量の 1%削減」を目標に設定し、省エネ活動に取り組みました。電力使用量の削減、効率化により長岡工場では 2021 年度排出量の 2.3%に相当する二酸化炭素排出量を削減、見附工場でも 1.3%に相当する二酸化炭素排出量を削減し、ともに目標を達成することができました。

省エネは工場全体で取り組むことが欠かせません。当社工場では各部署に目標値を定め、高効率の設備開発、効率的な設備使用、効率的な業務への改善を検討し、社員全員で取り組む省エネを活動当初から継続し、成果に繋げています。

その他、工場付帯設備に関する対策も継続しており、2014 年から照明の LED 化を開始し、昨今は器具の調達が困難な状況ではありますが、特殊な用途で使用する場所等残り少ない既存照明の更新についても計画的に切り替えを進めています。

今後も幅広い視野のもと、効率の良い生産活動が継続して行えるよう努めていきます。



▲長岡工場 二酸化炭素削減量の推移

◆ グリーン調達取り組み

地球環境保全と環境負荷低減に配慮した製品をお客さまに提供していくためには、環境に配慮した材料・部品等を積極的に採用していく必要があります。当社では世界的に拡大していく化学物質関連の法規制に対応し、お客さまが安心して使用できる製品を提供できるよう、グリーン調達ガイドラインを定め、それに基づく調達活動を行っています。

また、製品の有害物質情報について技術設計部門や資材購入担当部門、調達先が連携して、切削工具と直線運動軸受の全材料、部品、梱包材等における環境関連有害物質の含有状況を調査し明確にしています。



今後も製造から使用、そして廃棄まで、製品のライフサイクル全体を通じてより環境への負荷が少ない物づくりを目指していきます。

皆さまのご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

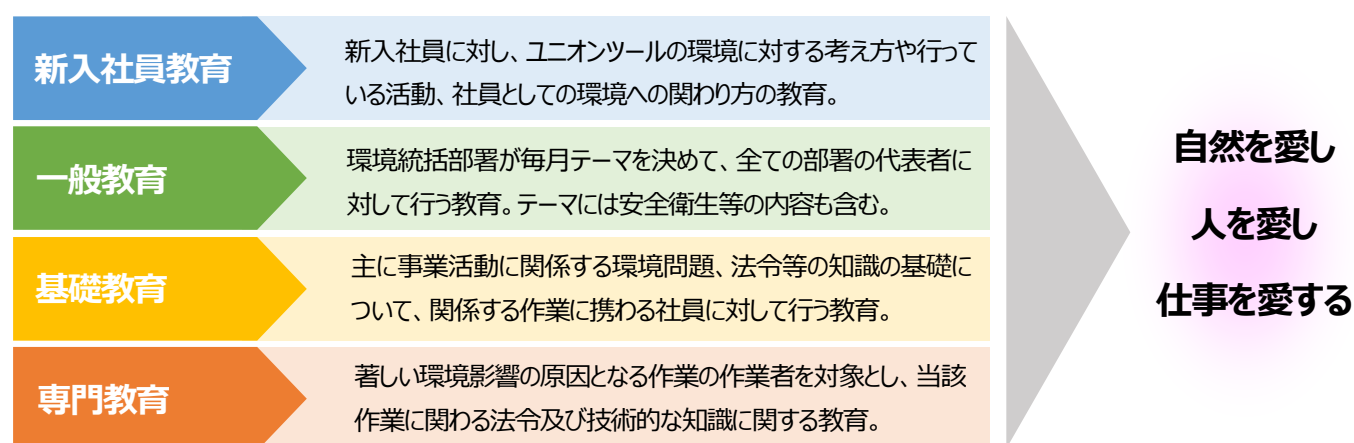
◆ 環境教育の取り組み

当社工場では環境統括部署が主体となり、環境に関する意識向上と知識の習得を目的として社員に継続的に教育を行っています。

教育体系は目的に合わせて4つあり、入社直後の「新入社員教育」に始まり、毎月さまざまなテーマで実施される「一般教育」、事業活動に関連するテーマを掘り下げる「基礎教育」、更なる専門性へと導く「専門教育」と、内容もレベルアップしながら教育を体系的に進めています。

「一般教育」では参加者にアンケートを実施し、テーマ選定、講師のレベルアップ等の参考にし、ブラッシュアップを図っています。

これらの環境教育は、“自然を愛し、人を愛し、仕事を愛する”という社風を守り続ける人材の育成につながっています。



◆ 地域貢献活動

● クリーン作戦

「クリーン作戦」とは長岡工場と見附工場の社員親睦会の主催で、社員とその家族が地域へ日頃の感謝の気持ちを込めて、工場周辺を美化する目的でゴミ拾いや草刈りを行う活動です。例年2回実施していましたが、2022年度もコロナウイルス感染症防止のため実施を見送りました。2023年はコロナウイルス感染症が第2類から第5類に引き下げられましたので、しっかりと感染対策をしながら、活動を継続していきたいと考えています。



▲過去の作業風景



▲過去の作業風景

● 仲道 郁代氏ピアノリサイタル

企業における文化芸術振興活動支援（メセナ事業）の一環として、ユニオンツールクラシックプログラムと題し、当社がオフィシャルスポンサーを務めるピアニスト仲道 郁代氏を招き、毎年定期的にピアノリサイタルを開催しています。

25回目を迎えた2022年は、ベートーヴェンの没後200年と仲道氏の演奏活動40周年が重なる2027年へ向けてご本人が企画された壮大なシリーズ「The Road to 2027」から、本社のある東京都では春のシリーズの「知の泉」で更に進化したベートーヴェンの音色を、主力工場を置く新潟県長岡市では秋のシリーズの「前奏曲 -永遠への兆し-」でドビュッシーやラフマニノフの技巧あふれる豊かな音色を披露していただきました。

2027年へ向け、仲道氏が奏でる哲学的でスリリングな旅路を今後もぜひご堪能ください。



仲道郁代オフィシャルHP：

<https://ikuyo-nakamichi.com/>

長岡リリックホールHP：

<https://www.nagaoka-caf.or.jp/>

サントリーホールHP：

<https://www.suntory.co.jp/suntoryhall/>

なお、当社はこの他、新日本フィルハーモニー交響楽団・NHK交響楽団・東京フィルハーモニー交響楽団の賛助会員として各団体の音楽活動も応援しています。

新日本フィルハーモニー交響楽団オフィシャルHP：

<https://www.njp.or.jp/>

NHK交響楽団オフィシャルHP：

<https://www.nhkso.or.jp/>

東京フィルハーモニー交響楽団オフィシャルHP：

<https://www.tpo.or.jp/>



● イルミネーション

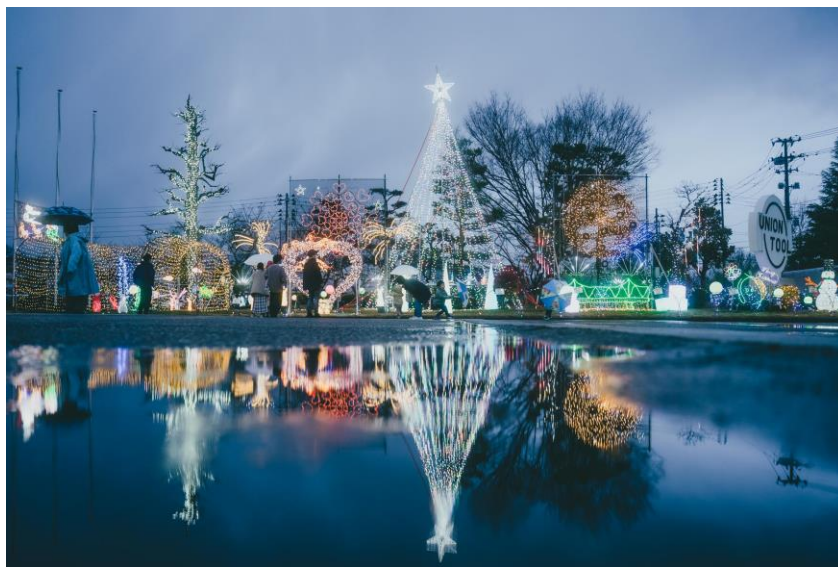
冬の長岡の風物詩となっている長岡工場のイルミネーション。

2022 年は 12 月 1 日にゆにおんの杜 南陽保育園のりす組さんにもお手伝いいただき、和やかな雰囲気での点灯式を行いました。

2022 年は大きなハートのモニュメントを配置し、人気の光のトンネルの周りには森と海の動物たちを 2021 年より更に数を増やしました。鳥のフェニックス（不死鳥）をモチーフにした力強いオブジェ、長岡花火のフェニックス、三尺玉、長生橋とナイアガラをモチーフにしたもの等、長岡を象徴するイルミネーションもたくさんあり、ご来場頂いた方にも長岡花火をイメージ頂けたのではないのでしょうか。その他、例年の並木の装飾、パステルカラーに変身したツリー等もあり、寒い中でも煌めく光の夜空を楽しんで頂けたことと思います。

このイルミネーションは、長岡工場に勤務する社員がクリスマスの時期にあわせて毎年デザインし、設置しており、ますます明るく賑やかになっています。

「長岡の 12 月は、暗くて寒い季節ですが、イルミネーションを見て心をあたためてほしい」という願いを込め社員を癒す目的で 1995 年から始めたこのイルミネーションは、2022 年で 28 回目を迎え、社員だけではなく一般の方々からも、暖かいお手紙やメッセージをいただいております。装飾には環境に配慮し LED（約 42,000 個）を使用しています。



▲2022 年のイルミネーション

● 福祉施設へリサイクル作業等の一部委託

2007 年からドリルケースの再生業務の一部、また 2014 年からはエンドミルキャップの並べ作業を地域の福祉施設に委託しています。現在当社ではドリルケースのリサイクル業務を専門的な位置付けとしており、提携業者に一括して委託をしていますが、誰もが活躍する社会のためにその一部作業を福祉施設で行っていただいております。



▲福祉施設 虹の家様 作業の様子

◆ 今後の取り組み

2023 年度の目的・目標のうち省エネルギー化については 2019 年度をベースとし、5 ヶ年で 5%の単位生産二酸化炭素排出量削減を中長期の目標として継続的に取り組みます。

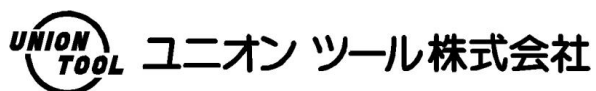
省資源化の課題については、工具の長寿命・高効率化・リサイクル化をさらに進め、お客さまの求める品質を追及し、同時に環境へも配慮した製品の開発を積極的に進めていきます。

2023 年度の取り組み

項目	推進内容	2023 年度目標
省エネルギー化	2024 年度までに単位生産二酸化炭素排出量（※1）を 2019 年度比 5%改善	2022 年度エネルギー起源二酸化炭素排出量（※2）の 1%相当を改善により削減する
省資源化	環境配慮型製品の開発推進	高性能工具の開発 3 件
省資源化 リサイクル化	脱プラスチック・脱炭素を意識した取り組みの推進	PCB 工具において再生ケースまたは環境負荷の少ないケースの使用比率を増やして単位生産二酸化炭素排出量を 2022 年度比 10%低減させる

※1：単位生産二酸化炭素排出量＝PCB ドリル 1,000 本生産当たりのエネルギー起源二酸化炭素排出量

※2：エネルギー起源二酸化炭素排出量＝当社が購入しているエネルギー（電力、ガス、灯油等）の使用により排出される二酸化炭素量



【本社】

〒140-0013

東京都品川区南大井 6-17-1

TEL 03 (5493) 1001

FAX 03 (5493) 1002

環境報告書に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

【長岡工場】

〒940-1104

新潟県長岡市摂田屋町字外川 2706-6

TEL 0258 (22) 2620

FAX 0258 (22) 0045

長岡総務課 担当：米山

E-Mail yoneyamao@uniontool.co.jp

※本報告書は2022年度（2022年1月～2022年12月）のデータを中心にまとめています。

※一部のデータに関して、長岡工場及び見附工場の値が合算されているものがあります。

また最新情報の提供のため、一部の内容に関しては、2022年12月以降のものも含まれている場合があります。